

(様式1)

令和2年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 76	提案機関名 公益財団法人 相模湾水産振興事業団
要望問題名 今後の種苗放流等について	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 ○ 当事業団は、水産資源の維持拡大、沿岸漁業者の経営安定を図るため、葉山町から湯河原町地先に、サザエ・アワビ・ハマグリ・アサリ・マダイ・ヒラメ・カサゴ・マコガレイ等の種苗放流を実施している。 ○ 現在、種苗の種類、放流場所・時期は、各組合の要望により実施している。 ○ 相模湾の漁場環境等に照らして、種苗種類毎の放流場所・時期・大きさ等の調査、指導並びに放流後の育成、分布等、調査を要望する。 ○ 相模湾に適し、放流効果が期待できる新しい種苗の開発について要望する。 ○ また、ここ数年水産技術センターのサザエ種苗の生産減により各組合の要望に応えられていないのが現状であり、今後、サザエ種苗の安定供給の調査・研究を要望する。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。(提案者は記載不要)

回答機関名	水産技術センター	担当部所	栽培推進部
対応区分	① 実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可 <input type="checkbox"/>		
試験研究課題名	(①、②、④の場合) 再生産によるアワビ資源添加技術の開発、新栽培対象種の放流技術開発研究、カサゴにおける資源管理型栽培漁業技術開発研究、サザエ種苗生産不調対策研究(仮称)		
対応の内容等	○種苗放流にあたって魚種毎の適正場所や時期などについては積極的に指導・提言させていただきますのでいつでもご連絡ください。 ○現在、県内主要7市場で定期的にマダイ・ヒラメ・トラフグ・カサゴ・サザエ・アワビなどの放流効果の把握を目的とした市場調査を実施しております。それ以外の魚種で標識放流などで種苗由来が特定できる場合には、市場調査の際に注意して検出に努めてまいります。 ○相模湾に適し、放流効果が期待できる新しい種苗の開発については、現在、トラフグの種苗生産および放流技術の開発を進めております。 ○サザエ種苗の安定供給の調査・研究については、当センターとしても最重要課題と考えおり、様々な試験や調査を行い、国や大学の専門機関に数回分析を依頼した結果では、生産不調の直接的な原因として寄生虫や細菌感染症等の可能性は低いという見解が出ております。今年度(令和元年度)は、波板剥離までの初期段階の餌料環境を良好に保つことが鍵と考え、付着する珪藻を培養管理した波板による飼育実験や従来の網生け簀方式と波板による直飼方式の比較検討などを行って不調原因の解明に取り組みます。令和2年度も、元年度の結果を踏まえたうえで引き続き生産不調の原因解明に向けた試験研究に取り組み、一日も早い量産復活に向けて努力してまいります。		
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			